

令和元年度 認定こども園 高松東幼稚園 自己点検・自己評価（公表シート）

実施期日〈令和2年3月25日〉

1. 本園の教育・保育目標

○建学の精神 「研究的幼稚園」「理想的幼稚園」「非営利的幼稚園」

○教育・保育目標 「じょうぶな身体を育てる・豊かな心を育てる・創造する力を育てる」

○育てたい子ども像

- ・少しのことで疲れず、友達といっしょにしんぼう強くよく考えて遊ぶ子
- ・きちんとすることと、のびのびすることとの両立ができる子
- ・基本的な生活習慣、態度を身に付け、自分に対する自信をもつことができる子

○保育者の基本的姿勢

- ・一人ひとりの子どもが“大切にされている”と実感できるような子どもと保育者の信頼関係を構築すること
- ・時代の変化に対応する教育・保育内容を創意し、それを計画的に環境として構成すること
- ・保育者の特性を生かし、協力体制を生かすチーム保育により、よりきめの細かい保育を目指すこと

2. 本年度の重点項目とその設定理由

1. 幼保連携型認定こども園としての運営

- 0・1・2歳児教育・保育課程の確立と実践
- 2号認定児の教育・保育課程の充実
- 施設・設備の整備
- 人材の確保

（設定理由）幼保連携型認定こども園へ移行して3年が経過し、0・1・2歳児保育も軌道に乗りつつある。これまでの実践を振り返りながら、より具体的な教育・保育課程を確立していく。2号認定児の長時間保育についても、教育課程を確立し、内容の充実を図る。豊かな保育環境を目指し、施設・設備の整備も継続する。定員を満たす人数を受け入れ長時間保育に対応する為に、保育教諭を確保していかなければならない。

2. 保育の質の向上

- 教育・保育課程、環境の見直しと改善
- 若年教職員の育成、研修の充実
- チーム保育の体制強化

（設定理由）幼児教育・保育の無償化が始まり、より質の高い教育・保育が求められている。若年教職員をチームでフォローしながら、園全体の質の向上に努める必要がある。

3. 子育て支援の充実

- 様々な保育ニーズ(長時間保育・土曜保育)への対応

（設定理由）1号認定児の一時預かりは年々増加しており、朝夕の延長保育や土曜保育の希望も多い。教職員の勤務体制を工夫し、保護者のニーズに応えられるようにする。

3. 重点項目の取組み状況と自己評価

重点項目		取組み状況	自己評価 (5段階)
1	0・1・2歳児の教育・保育課程の確立と実践	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実践から得られた気付き等を生かしながら月間指導計画や個別の指導計画を立て、一人ひとりに応じたきめの細かい保育を目指した。この3年間で、行事についてもいろいろと試行錯誤を繰り返してきたが、実施時期や方法を再検討しつつ安定した運営をできるようにしていきたい。 ・引き続き、保育アドバイザーの秋山通子先生からご指導いただき、保育環境や保育内容を改善していった。 	4
	2号認定児の教育・保育課程の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢の担当教職員がそれぞれの年齢に応じた遊びや生活の進め方を工夫していたが、より細かく具体的な計画が必要と思われる。主幹保育教諭がフォローに入りながら、生じた課題等を解決していった。長時間保育の人数が増える中、より安心安全な保育を確立する為に、環境や運営方法の見直しを行っている。 	3
	施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策で、空間除菌装置を各保育室と通園バス内に設置。今年度、学級閉鎖になるような感染拡大はなかった。 ・夏場の熱中症対策として日除けテントを増やし、プールの水温調整にも活用した。 ・安全・防犯対策として、屋内外の防犯カメラを増設した。 ・大学第5駐車場横を職員駐車場として整備し、第2園庭も活用することで、日常的に南駐車場が満車になることがなくなった。 ・第2園庭は、水はけの悪さや土の硬さの改善が必要であり、整備が進められていない。 	3
	人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中で非常勤職員1名を採用できたが、十分な人数の確保には至っていない。募集はしていたものの次年度新卒採用が0人という結果になった。求人・採用活動を積極的にしていく必要がある。次年度も4月から中途採用者を引き続き募集する。 	2
2	教育・保育課程、環境の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の教育・保育課程に基づきながらも、各学年で活動を精選しながら実践した。各種行事についても、日常生活に無理が生じないようにその都度見直し、規模ややり方を改善していった。 ・新しく遊具や設備品を購入するばかりでなく、現在ある物を有効的に活用し、遊び環境の充実に努めた。 	4
	若年教職員の育成と研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・若年教員が担任するクラスには副担任のベテラン非常勤教員や周りの先輩教員がフォローに入り、クラス運営において大事にすべきこと等に気付けるようにした。若年のうちに様々なクラスを担当し、豊富な経験を積み重ねられるようにしていく。 ・例年通りに、園内公開保育形式の研修を実施。それぞれの保育を見て、気付き等を伝え合うことが、全体のレベルアップに繋がっている。園外の研修にも可能な限り多くの者が参加した。 	4

	チーム保育の体制強化	・教頭や主幹保育教諭の他、フリーで動ける教職員がフォローに入り、0・1・2歳児クラスとすみれ組の人手が不足気味になる時間帯をカバーした。家庭の事情や病気等で急な欠員が生じた際にもスムーズに対応できた。クラス運営の悩みを担当が一人で抱え込むことがないように、情報を共有しながらベテラン教職員が援助や励ましを続け、園全体で保育をする意識を強めた。	4
3	様々な保育ニーズへの対応	・1号認定児の一時預かりの人数が多い長期休業中は、すみれ組以外の保育室を使用するなどして対応した。 ・西館2階の多目的室を保育室にし、南館1階の1部屋を低年齢児仕様に改装することで、2歳児の受け入れ人数を増やすことができた。次年度は0・1・2歳児の定員を満たす受け入れが可能。	3

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
施設・設備の整備	・第2園庭の整備を中心に、0・1・2歳児の保育環境を充実させる。 ・すみれ組(2号認定児の午後保育、1号認定児一時預かり保育)の人数の増加に対応する為に、園全体の保育室の使い方を工夫する。
人材の確保	・0・1・2歳児と満3歳児クラス定員を満たす人数を受け入れられるよう教職員を配置する。早期に新卒採用活動を開始し、優秀な人材確保に努める。
教育保育内容の改善	・特に0・1・2歳児と2号認定児の保育について、より具体的な教育・保育課程を確立させていく。 ・既存の教育・保育課程を見直しながら全体的な計画を作る。園行事の在り方等についても検討し、精選していく。
子育て支援事業の拡充	・たんぽぽ(親子参加型活動)やTJ教室(未就園児教室)の内容を充実させ、可能な限り回数を増やす。園庭開放は見学も兼ねて、0歳児から希望に応じる。 ・地域の子育て支援機能を果たす為に、在園児以外の一時預かり保育事業や土曜日の園庭開放なども検討する。
地域との繋がりを深める	・保・こ・幼・小の教員研修等の機会に積極的に情報交換をし、相互理解を図る。連携施設である近隣の小学校・保育所との連携を深められるようにする。 ・ホームページ等で園の情報を発信し、地域の高齢者との交流会を実施したり園行事にお招きしたりすることで、本園に対する理解を促進していく。
自己評価・自己点検	・運営と教育・保育の両面からの適切な点検・評価を行う。第三者評価の実施も検討する。 ・県と市からの監査指摘事項を運営の改善に役立てる。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められた。